



早稲田大学におけるダブルディグリーの取り組み

早稲田大学 国際部・留学センター 江正殷

早稲田大学と海外トップ大学 とのダブルディグリープログラム (DDP)

◆ 博士レベル

- ・北京大学との博士課程学生の共同育成(2002年9月開始)
- ・コロンビア大学大学院博士レベルDDP(2008年4月開始)

◆ 修士レベル

- ・ナンヤン工科大学(シンガポール)とのダブルMBAプログラム(2006年8月開始)
- ・台湾大学大学院修士レベルDDP(2008年4月開始)

◆ 学部レベル

- ・北京大学・復旦大学との学部レベルDDP(2005年9月開始)
- ・台湾大学との学部レベルDDP(2007年4月開始)
- ・シンガポール国立大学との学部レベルDDP(2007年8月開始)



早稲田大学と海外トップ大学 とのダブルディグリープログラム実施概要（学部）

	北京大学	復旦大学	台湾大学	シンガポール 国立大学
国・地域	中国	中国	台湾	シンガポール
使用言語	中国語 (一部英語)	中国語	中国語	英語
留学期間	1年	1年	1.5年	1.5年/2年
定員	15名以内	15名以内	10名	5名
派遣留学先で 専攻する分野	国際関係学	ジャーナリズム	政治学/商学	人文社会学 または理工学 (専攻は自分で選択)
授与学位	双学士学位	学士学位	学士学位	学士学位
対象	学部生	学部生	学部生 (ただし限定)	学部生

※1 中国と台湾のプログラムでは、中国国籍（香港・マカオ及び台湾籍を含む）学生は出願不可

※2 プログラム参加するうえで要求される語学力について。

①中国と台湾のプログラムでは、派遣前までに、中国語能力検定試験(HSK)6級以上（またはそれに準じた資

格）取得が求められる。

②台湾大学の商学専攻プログラムでは、派遣前までにTOEFLiBT79-80/PBT550か、TOEIC750以上のスコア提出が義務付けられてる。

③シンガポール国立大学プログラムでは、派遣前までにTOEFLiBT92-93/PBT583/CBT237のスコア提出が
要求されている。

ダブルディグリープログラムにおける各大学の学位取得要件 (中国・台湾の場合)

【北京大学からの学士学位授与要件】

1)北京大学でダブルディグリー課程を履修する

(一部の科目は英語だが、大半は中国語)

2)双学位取得要件(39単位)

必修単位 7科目 21単位

選択必修科目 6科目 18単位

(但し、うち最低1科目については早大において北京大学が指定する特定の早大設置科目を履修することで単位を取得する。最大2科目まで早大設置科目の履修が可能)

3)北京大学のダブルディグリー・プログラム課程を修了し、帰国した後、早稲田大学の学士課程修了要件を満たして卒業すること。

4)早稲田大学所属学部 of 卒業をもって法学学士(国際関係学院 国際政治)双学士専攻)の学位が授与される。

【1学期間にとるべき最大履修単位数】

1学期20単位まで履修可能であるが、1科目あたり3単位であるため最大履修単位は1学期6科目 18単位

【復旦大学からの学士学位授与要件】

1)復旦大学新聞学院が指定するダブルディグリー課程指定科目を履修し、43単位(科目履修39単位+卒業研究4単位)を取得すること。(但し、うち9単位までは復旦大学が指定する特定の早大設置科目を履修することで単位を取得できる)

2)復旦大学のダブルディグリー・プログラム課程を修了し、帰国した後、早稲田大学の学士課程修了要件を満たして卒業すること。

【台湾大学からの学士学位授与要件】

1)台湾大学社会科学院政治系が指示するカリキュラムに従って科目を履修し、60単位を取得すること。

2)HSK5級を取得すること。

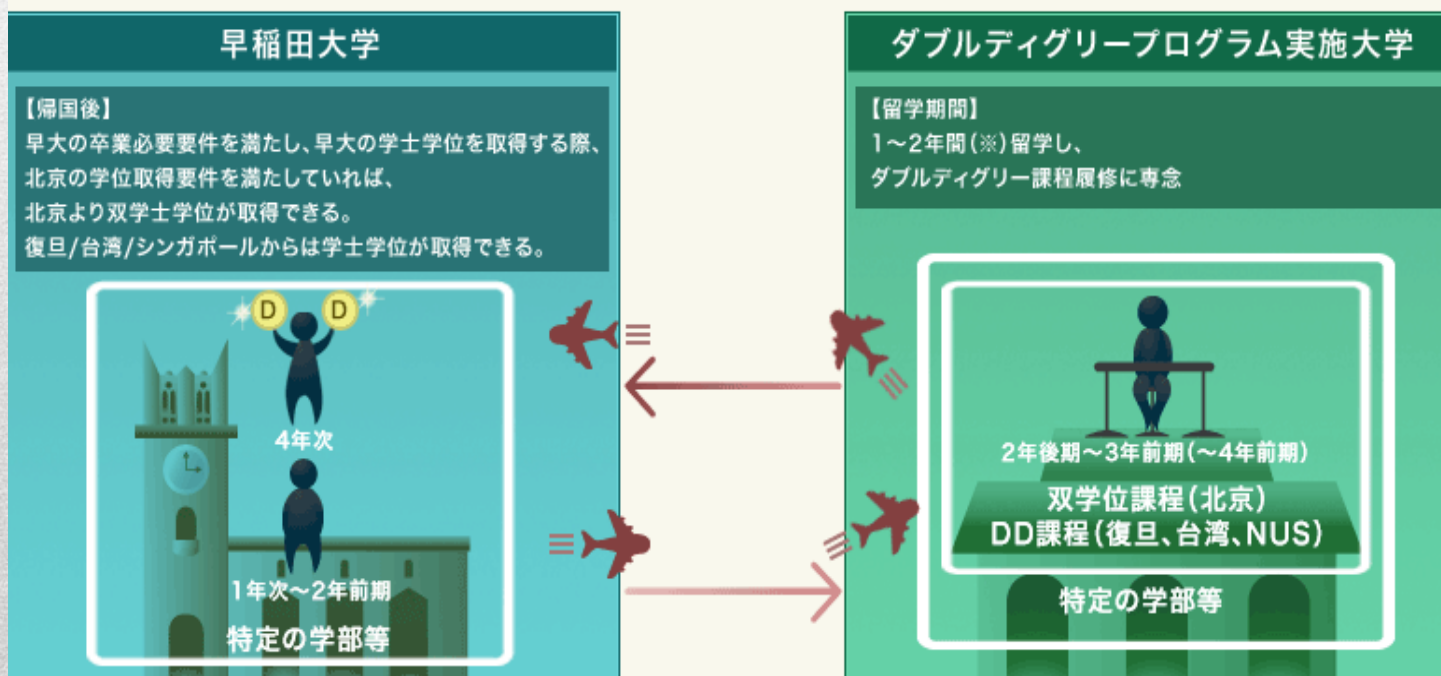
3)台湾大学のダブルディグリー課程を修了し帰国した後、早稲田大学の学士課程修了要件を満たして卒業すること。

履修モデル

ダブルディグリープログラムに参加した場合の早稲田大学・学部履修モデル

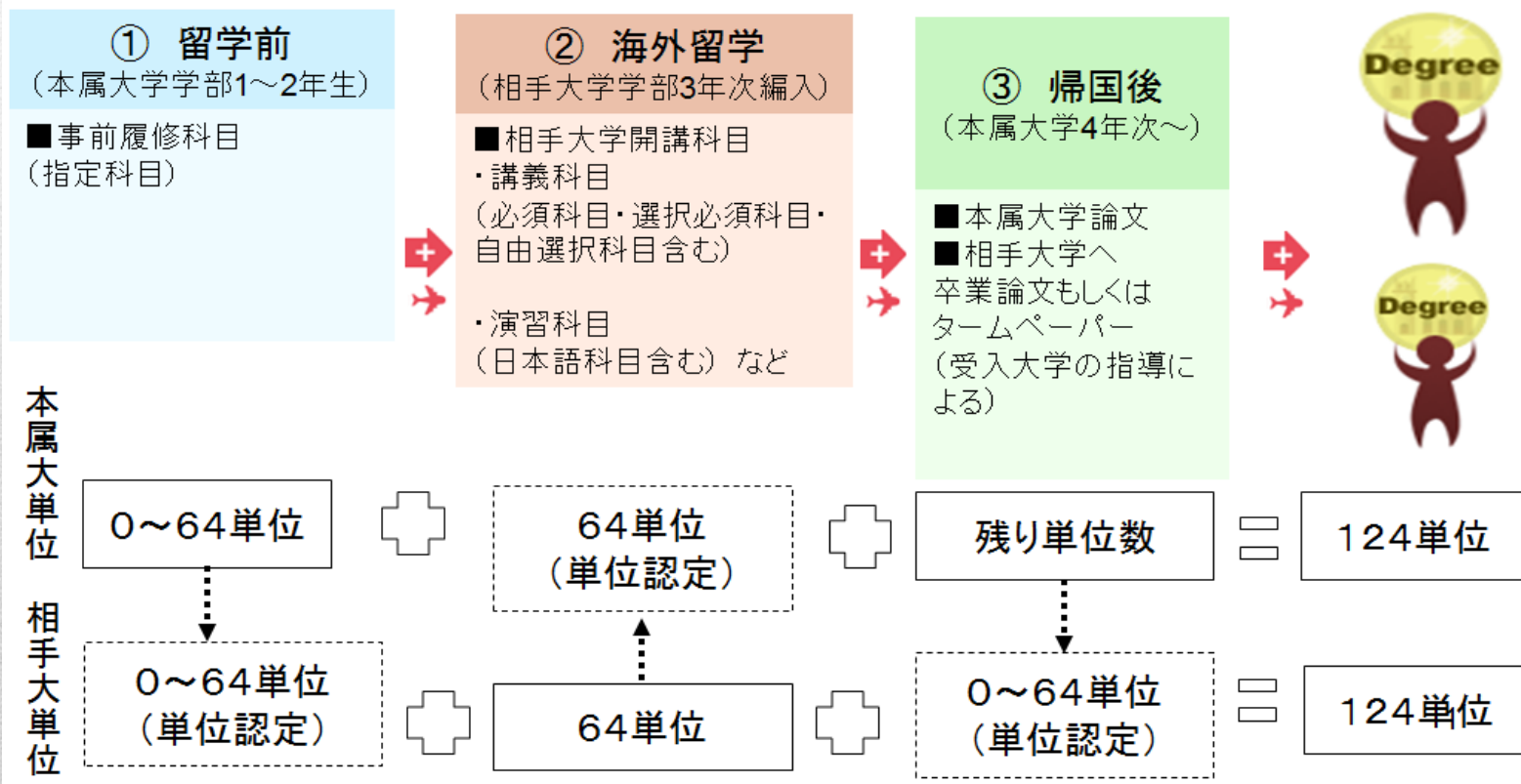
【注意事項】

- (1) 下図は所属学部2年後期(9月)からの留学を想定した場合の実施モデルです。
4年卒業の可否は留学前後の早大所属学部単位取得状況や派遣留学時の早大学年などによって異なります。
- (2) 留学期間は派遣先大学により異なります。



海外大学とのダブルディグリー・プログラム モデル(学部)

～海外協定校への留学期間1.5年、終了要件124単位の場合～



ダブルディグリー・プログラム受入学生 早大カリキュラム(北京大学の場合)

2010年9月早大(国際教養学部)入学者

① 渡日前 (早大特別聴講生)

■ 事前履修科目
(北京設置早大(CIE)科目)

・ 講義科目(必須)
全4科目(2×4=全8単位)

※取得単位は国際教養学部
「日本研究科目」として早大
学位取得要件に算入

未履修者

早大
単位

8単位



② 早稲田大学留学 (早大3年生編入)

■ 早大開講科目

・ 講義科目
(必須科目・選択必須科目・
自由選択科目含む)
・ 演習科目
(日本語科目含む)
・ 春季集中CIE科目(必須)
全2科目(2×2=全4単位)
・ 夏季集中CIE科目
(ただし①未履修者のみ)

52単位

(秋学期:24単位)
(春学期:24単位)
(春季集中:4単位)
(夏季集中:0~8単位)*

③ 帰国後 (早大4年次)

■ 卒業論文もしくは
タームペーパー
(受入学部の指導に
よる)

4単位



64単位

ダブルディグリープログラム（DDP） 現地時間割例(復旦大学の場合)

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1	市場調査方法	対外報道		出版学	公共関係実務
2	市場調査方法	対外報道		出版学	公共関係実務
3	組織論	跨国文化		消費心理与消費行動	世論学
4	組織論	跨国文化		消費心理与消費行動	世論学
5	伝播学概論	インターン	網絡新聞伝播原理与応用	中外広告案例赏析	インターン
6	伝播学概論	インターン	網絡新聞伝播原理与応用	中外広告案例赏析	インターン
7		インターン	網絡新聞伝播原理与応用		インターン

私にとってのこの1年は人生の中で一番充実していた1年だった。
向こうでの生活が始まったばかりの時は慣れないことも多く失敗の連続であった。
その際感謝すべきはやはり全ての出会いであると思う。
現地の学部の人々の友人には勉強面と精神面で大分助けられた。
重なる論文やプレゼンテーションを嫌な顔一つせず手直ししてくれた、昼休みになると学生でゴった返していた食堂で毎日一緒に昼食を食べた、気持ちがふさいだ時は自分のベッドを貸してくれた、そんな友人に本当に感謝をしている。
留学生の友人からは多くの異国文化を与えられた。
様々な価値観、背景を持った彼らとの出会いは私の視野を広げた。
彼らと行った旅行は私に更に地大物博な中国を好きにさせてくれた。



中国人14人と江西省へ行った時



5月12日の四川地震の一週間後の黙祷。中国全体が一つになった日。



ダブルディグリープログラム（DDP）修了式の様子

■授与された学位を手にした皆さん

当日は、学位授与対象者のうち北京大学でのプログラム参加者5名、復旦大学ダブルディグリー・プログラム参加者4名が参加されました。すでに早大を卒業され、社会人としてまた進学し大学院生として活躍中です。



■復旦大学の先生方とダブルディグリー卒業生



■授与式の後は懇親会を行いました。

早稲田大学関係者だけでなく、来日中の復旦大学ダブルディグリー・プログラム関係者の皆さんも参加されました。



■早稲田大学と復旦大学、両大学の学位記を手に。まさにダブルディグリーを取得！



ダブルディグリープログラム（DDP）参加学生の声

STUDENTS' VOICE

勉強は厳しかったけれど、
大きな達成感を感じています

当初は、交換留学で中国の復旦大学に行きたいと思っていましたが、留学センター主催の留学フェアに参加したところ、ちょうどシンガポール国立大学(NUS)へのダブルディグリー・プログラムを初めて募集していました。得意の英語を生かせる上、2年間という長い期間、興味ある分野を学べ、専門性を深められると考えて、留学を決めたのです。

NUSには、2年の8月から4年の7月までの2年間、留学しました。専攻は「Communications & New Media」です。これは、ジャーナリズムとデザイン、広告、ゲーム理論などを学ぶ専攻で、私はその中でデザインを専門分野に選びました。授業はグループワークが多く、メンバー全員でプレゼンテーションをしたり、エッセイを書いたりしました。世界でも上位にランクされる大学だけに、皆ものすごく勉強熱心で、自分の甘さを思い知らされるほどでした。

勉強の量が多くて質も高く、しかもNUSの学位取得には相対評価の中で一定のGPA(成績評価値)も必要だったので、とても厳しい毎日でした。勉強がきつくてあきらめそうになった時期もありますが、それを乗り越えて強くなり、人間的にも成長できたと感じています。何より大きかったのは、きちんと人と向き合えるようになったことです。ダブルディグリー・プログラムを通じて、早稲田大学とNUS、両方の学位を取得できる資格を得ることができ、大きな達成感を感じています。



佐藤 日登美
SATO HITOMI

広島県立尾道北高校出身
国際教養学部4年
シンガポール国立大学に留学

■ダブルディグリー参加者の声 学んだのは積極的な自己主張

齊藤 遥さん 大学院文学研究科1年

中国文学を専攻していた私は、ダブルディグリー・プログラムの1期生として北京大学に約1年間留学し、国際関係について学びました。

普通の交換留学では、聴講生として講義に参加するためテストを受けなくてよいのですが、ダブルディグリーは学位取得が前提なので、一般の大学生と同じカリキュラムで学べて、テストもあります。しかし私たち留学生は1年しかいられません。単位を落とすとその時点で落第になってしまうので、とにかく勉強しました。学位がもうひとつもらえるのがこの留学制度のよさですが、「就職に有利だから」という気持ちだけでは絶対に続きません。学びへの強い目的意識が求められる制度であることは間違いないと思います。

印象的だったのは、中国の学生がとても知識が豊富で能弁だったこと。講義で意見を発表するときなど平気で5分以上話しているんです。プライベートも、とにかく議論する機会が多く「闘い」の毎日。私は中国でさまざまな影響を受けて、今まで以上に積極的に議論できるようになったんです。

学んだ中国語を生かして、現地で専門知識を学べるこの留学制度は、私の志向と一致するものでした。語学を学びたい、海外の文化に触れたいなど、留学を希望する人の目的はさまざまです。早稲田には学生のニーズに合わせた留学プログラムが充実していますから、それぞれに合ったスタイルで学びを深めることができます。

(談)

※新聞記事より抜粋



今後の課題・展望

ダブルディグリープログラムの実施における問題点

より質の高いダブルディグリー制度の構築

国際共同学位プログラムに向けた課題

アジア型エラスムス・ムンドゥス構想の可能性